

島根県の中山間地域における インターンシップを通じた若者の受け入れ方

島根県立大学2023年度市民研究員共同研究
 発表者 一般社団法人津和野まちばぐみ
 代表理事 畔柳 知宏
 インターン 安武 洸起


1

自己紹介

一般社団法人津和野まちばぐみ
 事業：町並み保存地区に関する技術協力、資料館や空き家の利活用
 本研究との関係：町並み保存地区における人手不足、資料館における大学連携

まちばぐみインターン
 発表者は一年間大学を休学し、インターン中。
 インターンとして津和野町と大学生の関わりづくりの創出を担当。
 EX.大学生向けワークショップの開催

- 体験ツアーの開催
- アルバイトの紹介



2

研究の目的

地域の人手不足
 観光客の減少
 交流人口への注目



↓

島根県各地で行われており、
 若者と地域との長期的なつながりを見据えた活動として
 大学生向けのインターン受け入れ活動に着目

3

既往研究

学生が関わる地域に関する研究

- ▶ 「海士町における地域づくりの展開プロセス」
 (島田映文、『自治総研通巻』456号、2016年10月)
- ▶ 「地域における新たなつながりの創出に関する研究」
 (上野山裕士、和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス、2016/7/7)

大学教育の一環としてのインターンシップに注目するものや具体的な事例研究に留まるものが多数

学生が行う地域づくりに注目した研究

- ▶ 「インターンを通じた中山間地域での若者の受入の成果と課題」
 (金子知也、『農村計画学会誌』Vol.35、No.1、2016年6月)
- ▶ 「地域と学生との協働に対するサポートのあり方」
 (上野山裕士、和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス、2016/12/8)

相対的な観点からみたインターンの有効性やそれを継続するための仕組みについての議論は少数

↓

**本研究では島根県内の複数の大学生が参加できる
 インターンシップ制度に注目し、その運用を分析**

教育的観点からインターンシップに注目する研究

- ▶ 「香川大学における『地域インターンシップ』の実践」
 (長尾敦史、神田亮、『香川大学地域人材共創センター研究報告』第28号、2023/3)
- ▶ 「中山間地域の保育学生の地域ボランティア活動への取り組みと展望」
 (八尋茂樹、『新見公立大学紀要』第38巻pp. 149-153、2017年11月15日)

4

島根県における大学生インターンの動向

5

ジョブカフェしまね

運営：公益財団法人ふるさと島根定住財団

主な事業：島根県内の就活に関するイベント開催、情報発信

事業所：松江センター、浜田ランチ

- ▶しまね1Day仕事体験 (1-2日間)
- ▶しまね短期仕事体験 (3日以上)
- ・期間：1日-2日
- ・対象：県内外の大学等の学生で最終学年を除くもの
- ・助成金：インターンに伴う交通費、宿泊費助成あり



<https://www.gogo-jobcafe-shimane.jp/>

表：しまね短期仕事体験参加企業、学生数

	R2	R3	R4
申込企業数 (社)	183	208	235
マッチング企業数 (社)	94	130	126
申込学生数 (人)	291	496	484
マッチング件数 (人)	281	469	500
参加者数 (人)	268	425	463

ふるさと島根定住財団提供

インターンに対して多くの企業が参加し、補助も充実
安定して500名前後の学生たちが参加
地域による偏りが多く、地域特有の業種も多くない
地域や中間支援組織等との特別な連携、イベントはない

6

地域滞在型インターン

運営：島根県大阪事務所

概要：島根県内でインターンシップを実施している4つの運営団体それぞれから、

各プログラムの概要と参加学生の体験談を聞くイベント

参加団体

- ・一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム (松江市)
- ・一般社団法人 umi (雲南市)
- ・一般財団法人 島前ふるさと魅力化財団 (海士町)
- ・一般社団法人 豊かな暮らしラボラトリー (益田市)



<https://shi-match.jp/2022/12/07/Osakaevent/>

▶「地域滞在型インターン」とは

- ・企業側・学生側のインターンの目的→第一義は「就職先・採用学生のマッチング」
- ・地域滞在型インターンの目的→第一義は「就職先・採用学生のマッチング」ではない。
- 「地域の活性化」「第2のふるさと・関係人口」「成長・自己発見・自己実現」などが主目的であると考えられる。

7

地域滞在型インターンの分析

8

地域滞在型インターン/実施自治体

	松江市	海士町	雲南市	益田市	出典
人口(人) (令和4年10月)	200,880	2,314	34,646	43,753	しまね統計情報データベース(令和元年) 令和元年(2019) / しまね統計情報データベース(shimane-toukei.jp)
社会人口増減(人) (令和3年10月-令和4年10月)	△264	30	△158	△144	しまね統計情報データベース(令和元年) 令和元年(2019) / しまね統計情報データベース(shimane-toukei.jp)
大学数 (令和5年)	8	0	0	1	島根県ホームページ/大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号)による修学支援の対象機関となる大学等(確認大学等)について/令和5年8月3日 https://www.pref.shimane.jp/education/kyouiku/shu-paku-shien/list/taishoukyukan.html
面積	573.0km ²	33.4km ²	553.2km ²	733.2km ²	しまね統計情報データベース https://pref.shimane-toukei.jp/index.php?view=3830
インターン窓口企業	一社地域魅力化プラットフォーム	一社島前ふるさと魅力化財団	一社umi	一社豊かな暮らしラボラトリー	

大きく人口規模の異なる松江市を除く3自治体の組織に聞き取り調査を実施。

9

地域滞在型インターン/海士町の場合

概要：国内外の若者たちへむけた隠岐島前地域（海士町・西ノ島町・知夫村）での中長期就労型お試し移住制度

窓口企業：一般財団法人 島前ふるさと魅力化財団

①大人の島留学

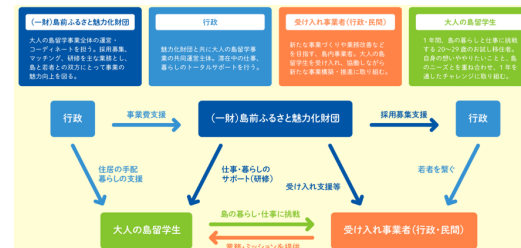
期間：一年間
対象：若者（20～29歳程度の方・学生も可）

②大人の島体験

期間：3か月
4～6月期、7～9月期、10～12月期
対象：若者（20～29歳程度の方・学生も可）

③お試し島留学

期間：2日
対象：若者（20～35歳・学生も可）



出典：<https://otona-shimaryugaku.jp/>

10

地域滞在型インターン/雲南市の場合

概要：まちをまるごと大学生の学びのフィールドとして、フィールドワークやマイプロジェクトに挑戦できるような場づくり

窓口企業：一般社団法人umi

①スタートアップ合宿

期間：1～2日（年2回）
対象：大学生など

②ローカルチャレンジ養成講座

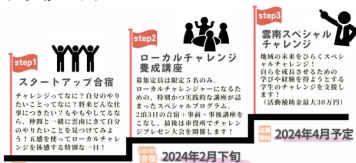
期間：3日（年2回）
対象：大学生など

③雲南スペシャルチャレンジ

期間：前期、後期
対象：大学生など

④企業インターン

期間：6週間以上
対象：大学生など



長期インターンシップ 受け入れ先募集

公開期間 2023.11.13 - 11.15

出典：一般社団法人umiHP <https://umiumu.com/>

11

地域滞在型インターンの比較/基本情報

インターン窓口企業	一社 島前ふるさと魅力化財団 地域魅力化事業部		一般社団法人umi			
	大人の島留学	島体験	町のキャリアセンター	UCC合宿	UCCローカルチャレンジ養成講座	UCCスペシャルチャレンジ
タイトル						
実施年月日	年1回	年4回	不定期	年2回	年2回	年2回
プログラムの実施歴	2020-※2022から現窓口企業が実施	2020-現窓口企業が実施	2016-現窓口企業が実施	※2020から現窓口企業が実施		
期間	1年間	3か月	最低6週間	2日間	期間なし	期間なし
目的	「島との関わり方を探る期間」をつくる		大学生が地域社会と関わる機会をもち、地域社会に希望を持てるように支援する		「地域課題を解決する若者人材の育成」	
対象	若者（20～29歳程度の方・学生も可）		企業の想いを応援したい人		自分でやりたいことがある人	
定員	計70名程度	計45名程度	2名	2名	計20名程度	計5名程度
最近のイベント(RS)における採用人数	44人	79人	1	6	9	3
上記 参加者の年齢構成	10代：1人 20代：43人	10代：4人 20代：75人	大学生			
参加者の募集方法	ウェブサイト、知人からの紹介等が多数		口コミが量・質ともに一番/出張時等の宣伝			
これまでの参加者合計	106名	197名	約605名（92大学）			

12

地域滞在型インターンの比較

インターンシップ制度の特徴

▶雲南市の特徴

- ・キャリア形成や学生起業等が目的
- ・島根大学の学生の参加が多い
- ・学生がやりたいことをサポート
- ・町を主とした事業で民間企業の想いに寄り添い、学生へのきっかけを提供するプログラム

17

津和野町における大学生インターン

18

実際にインターンしてわかったこと

津和野まちばぐみでのインターン

- ▶大学のゼミで二年間津和野に通い、月一回つわの未来塾で津和野での取り組みについて発表
- ▶R4.11 津和野に大学生向けのシェアハウスを作る案を発表→畔柳さんに声を掛けられ、共同でシェアハウスプロジェクトに取り組むことを決める
- ▶R5.2 一か月間、津和野から大学に通いながら、津和野で実験的に生活
- ▶R5.4～ 大学を休学し一般社団法人津和野まちばぐみでインターンとして活動

●勤務条件

- ・仕事：週三日
- ・生活費支給：85,000円/月
- ・住居探しには会社が協力、車貸出在り
- ・二週間に一度定例会議

●仕事内容

- ・観光施設受付
- ・宿泊施設清掃・受付
- ・空き家清掃
- ・アルバイト募集

19

実際にインターンしてわかったこと

できた地域とのつながり

▶始めの3か月

- インターンの仕事以外は地域でのイベントに出席
- 地域との関係を構築

▶その後

- 多くの方からお声がけ頂き、様々な職場で働く
- ex. 中学校勤務(学習支援員)、老舗店舗でのアルバイト

▶自分の強み=フィジカルと料理を認知してもらう

- 地域のイベントの手伝い
- イベントのフード構成も担当



20

実際にインターンしてわかったこと

▶インターンについて

- ①家探しが難航→移動手段（原付）があった→中心部から車で10分ほどの距離にある家
→移動手段のない人であればさらに選択肢は狭まる
- ②イベントの参加者（昨年まで）から主催側に
→地域で何か生み出そうとする事の難しさを目の当たりにした
→月一回足を運ぶ程度でははただのお客様に過ぎず、的確にニーズを理解することは難しい

▶津和野について

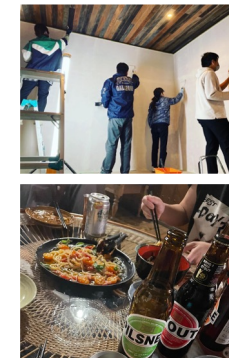
- 津和野は業種問わず慢性的な人手不足
→人手が足りないことで現状の仕事で精一杯になってしまい、新サービスの創出が出来ない
→それぞれの職場の事業の規模は小さく、必要となる人員は少数だが専門的
→大々の求人人は厳しいが、事業を関連づけて、まとめて人員を募集し分配できると良いのでは

21

津和野に必要なインターンの仕組みづくりに向けて

▶津和野で必要なこと

- ①お店の現状について知ってもらう（短期間のイベント）
- ②民間企業と就職or移住希望者のマッチング
- ③複数のお店に同時に関わることが出来る大きな枠組みづくり



22

津和野に必要なインターンの仕組みづくりに向けて

▶若者に向けた津和野体験イベントの開催を企画

目的： 普段の観光では味わえない津和野の良さを体感
 主催： 一社）津和野まちなかづくり
 日時： 3月14日～3月16日
 募集人数： 4名
 条件： 大学生（学部学科不問）
 参加費無料
 交通費宿泊費補助あり

プログラム構成

- ・昨年9月に開催したイベントでは、
プログラムに林業、農業、歴史、教育、町づくりと、
幅を持たせ過ぎて趣旨がぶれてしまった
→まちなかに特化して構成
- ・一年間で築いた人間関係を生かして企業と協力



23

研究成果の分析を踏まえた津和野での展開

▶本研究を踏まえた提案を作成→津和野町、島根県に提案予定

- ①海士町を参照した、いわみ留学の活用を検討
- ②海士町、雲南市に共通するように参加者、企業とのマッチングや調整を重視
→参加者のキャリア形成、企業の新事業応援を両立
- ③他自治体と異なり、「日本遺産の活性化」に特化
→関連する小規模事業者に協力依頼していく（ex.新商品開発、SNS広報、体験ツアーづくり等）
→喫緊の人手不足を補いながら、各事業者が発展できる環境をつくる
- ④勤務時間外でも企業との関わりしろをつくり、アルバイトや業務委託しやすい関係づくりを促進



24

研究成果の分析を踏まえた津和野での展開

▶事例分析や提案制作から見えた課題

- ・地域おこし協力隊の活用により、島根県内の大学との協働が難しい

→同じ仕組みで財源を分けることで、県内の大学生でも参加できないか？

- ・海士町のような大規模な受け入れが困難

→小規模で実施しながら検討していくしかないのか？

- ・住居、車等ハード面の手配が難しい

→事例では自治体の後押しが大きいが、津和野はどうか？

